レビー小体型認知症の初期症状

筑波大学 医学医療系 災害・地域精神医学*
茨城県立こころの医療センター 精神科
高橋 晶

KEY WORDS
●レビー小体型認知症(DLB)
●軽度認知障害(MCI)
●うつ病・うつ状態
●前駆症状・初期症状
●高炭酸換気応答
●自律神経障害

Early and prodromal symptoms of dementia with Lewy bodies (DLB).

Sho Takahashi(准教授*)

はじめに

認知症の診断・対応において，早期発見は重要な課題であり，レビー小体型認知症(dementia with Lewy bodies：DLB)においても，初期診断が大切なことはいうまでもない。しかしDLBでは病初期にうつ病などの精神疾患の病像を呈することがあり，その初期診断は実は困難な場合が多い。DLBの初期症状，前駆期症状についてうつ状態を中心にまとめてみた。

Ⅰ．レビー小体型認知症(DLB)とは

DLBはアルツハイマー病(Alzheimer's disease：AD)に次いで罹患率の多い変性性の認知症である。DLBの診断基準によれば，進行性で変動する認知機能の低下，幻視，パーキンソン症状が主症状に挙げられているが，これに自律神経障害，レム睡眠行動障害(rapid eye movement sleep behavior disorder：RBD)，幻視以外の精神症状がしばしば認められる。DLB典型例であれば診断は比較的容易であるが，特徴的な症状が出揃わない初期段階での診断はしばしば困難となる。また精神病症状で始まり，当初はうつ病，心気症，身体表現性障害，統合失調症などと診断され，後にDLBと診断される例があること[1]もDLBの初期診断をさらに困難にさせる一因である。

Ⅱ．DLBの初期症状(全般について)

DLBの初期症状や前駆状態について文献的に考察した。RBD患者からパーキンソン病(Parkinson's disease：PD)，DLBとして認知機能低下の進行を追跡した追跡調査では，38例の患者(35%)が神経変性疾患を発症し，20例がPD，18例がDLBであった[2]。時間の経過に伴う認知能力の変化は，

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.